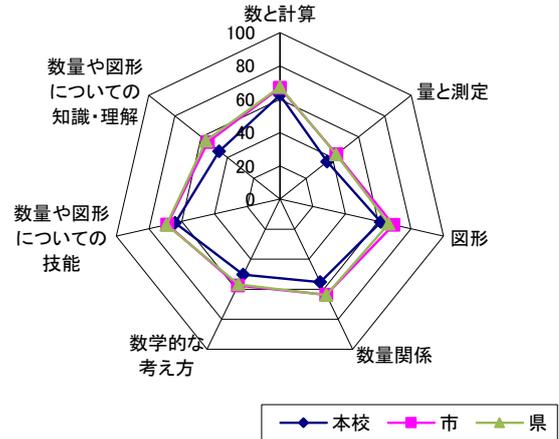


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.5	66.9	67.4
	量と測定	36.0	43.2	43.0
	図形	61.7	69.4	66.5
	数量関係	55.3	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	50.3	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	64.0	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	46.2	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●本領域の平均正答率は62.5%で、県の平均を4.9ポイント下回った。 ○1000円以内で全部買えるか見積もる方法を選ぶ問題では平均正答率は66.1%で、県の平均を3.1ポイント上回った。 ●3位数×2位数=4位数の問題では、平均正答率は61.3%で、県の平均を12.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活での経験を大切にするために、数学的活動を積極的に取り入れる。 ・基礎的な計算の技能の定着を図る。数と計算の単元では、授業の初めに前時の復習になる問題や系統性のある単元の計算を行い、反復練習する機会を確保する。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ●本領域の平均正答率は36.0%で、県の平均を7.0ポイント下回った。 ●図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する問題では平均正答率は50.0%で、県の平均を4.3ポイント下回った。 ●はがきのおよその面積を選ぶ問題では、平均正答率は25.0%で、県の平均を10.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を取り入れ、実感を伴った数的感覚を養う。 ・長さや面積について視覚的に捉えられるような復習の機会を繰り返し設ける。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●本領域の平均正答率は61.7%で、県の平均を4.8ポイント下回った。 ●与えられた2辺の続きをかいて、平行四辺形を完成する問題では平均正答率は50.0%で、県の平均を9.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパスや分度器の使い方について再確認し、作図や測定に関する活動を充実させることにより、技能を確実なものにしていく。 ・図形を扱う単元において、コンパスを用いて等しい辺の長さを図り取れることを確認する。 ・図形の性質を確認し、それを適切に利用して作図できるよう、様々な問題に取り組む。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●本領域の平均正答率は55.3%で、県の平均を8.6ポイント下回った。 ●ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式で表す問題では平均正答率は33.1%で、県の平均を27.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表は、一方の数がもう一方の数に伴って変化してくことと、2つの数の間にある関係を見やすく表していることを押さえる。 ・2つの数の関係を式にする指導の充実を図る。